

3、なぜ CW なのか...先輩からのメッセージ

CW の先輩から CW の魅力、こだわりメッセージを寄せてもらいました。

どこでも CW がしたい！

JR2UMU 森山泰樹

無線の免許を取って、あっという間に28年が経過しようとしています。はじめて無線に接した頃から、電信の威力というものを実感として感じていたので、電話級(現4級)を取得したのち、すぐに電信級(現3級)を取得し、電信の運用をはじめました。

開局当時の7メガは、非常ににぎやかで、正直者のSSB10Wでは、なかなか相手にしてもらえませんでした。

ところが、CWをはじめると、国内なら10Wで十分、21メガでは、こちらから呼ぶだけでなくEUやWから呼ばれる快感まで経験しました。

免許を取った時点では、頭の毛もふさふさした詰め襟の高校生ですから、車で移動というわけにも行かず、重いリグを持ち歩くのは大変ですから、なかなかHFの移動運用をする訳にはいきませんでした。CWが良く飛ぶのはわかっていたから、山の上でもCWがやりたい！！というのは自然な欲求でしょう。

免許を取って少して、IC-502(黒い弁当箱)が発売されました。今にして思えば結構重い・大きい・VFO安定度悪いと言う機械でしたが、「これで、山の上からCWが出来る！」と思えばそんなことは二の次。

しかし、電鍵をどうするか？貧乏学生には移動用の良い電鍵を買う余裕がありません。

おまけに、IC-502のCWモードはおまけみたいなもので、サイドトーンもない。ここで登場するのが、サトーパーツのベビー電鍵です。安い小さいの2拍子、お世辞にも打ちやすいとは言えませんでした。縦振れなら、サイドトーンも要りません。これで数百局交信しました。

その後、大学を卒業するまで、スーパーカブでIC-502とベビー電鍵、そしてカウンターポイズ用のワニ口クリップ付ビニール線を積んで、いろんな所を走り回って運用しました。(今考えれば、若き頃の良き思い出です。)



写真: 今も健在！ IC502 とベビー電鍵

大学3年の頃に大きなバイクに乗り換えたのですが、さすがにバイクを運転しながらCWを打つところまでは行きませんでした。世の中には、それさえする方も見えるようですが... (伊藤先生気を付けて)

就職して、車を買ってHFモービルをはじめると、50Wというパワーとアンテナの効率の悪さから、やはりCWをやる方々に考えは向いていきます。

買った車は4WDのマニュアル車。さてどうするか... もともと左利きですから、左で打つことには問題はないのですが、シフトチェンジをしなければならない。

初めは、シフトレバー又はハンドルのどこかにマイクロスイッチを張り付け、エレキーのパドルスイッチとしてCWを叩こうと計画しました。いろいろさがしたのですが、指の動きにじっくりくるマイクロスイッチがありません。ハンドルへの設置はあきらめました。ハンドルって廻るからどうやって線を引き回すの? となったのです。(今なら、いろいろ方法は思いつきますが、当時は考えが足りなかったんです。hihi)

結局ゲームセンターにあるアーケードゲームのスイッチが一番指にじっくりくる感じだったのですが、とても大きく、ハンドルはもちろんシフトレバーにもくくりつけられないものでした。(もっと探せばあったのかもわかりませんが、根気が切れてしまいました。)

そこで、シフトレバーは常に持っていなくても良い訳だから、もし何かあったら打つのをやめてシフトチェンジすれば良いんだから、と割り切り、運転席と助手席の間にあった物入れにそのスイッチを付けることとしました。結構タッチは良く、7メガあたりで、よく交信もしたのですが、ジャンクのスイッチの悲しいところ、約1ヶ月で壊れてしまいました。

その後、カツミのパドルを購入し、使用しております。(現在はMK - 1024の残骸か

ら取ったパドル部分をセンターにセットしています。 写真参照)



今モバイルからは、10メガ、50メガ、144メガ、430メガという変則的な組み合わせでアンテナを設置して通勤の途中に運用しています。(片道1時間半、結構遊べます。)

電信をやるものにとって、電鍵のコレクションに走るものと、何でも良いからCWの電波を出したいものに別れるようですが、私は後者の方でして、移動運用に行くと電鍵がなかったり、公開運用で電鍵が置いてなかったりすると、リード線を付けたり離したりしてCWを打ったこともあります。

また、複式電鍵が打てないのに複式電鍵しか置いていない(おまえが下手だからしょうがないって?ハイ、その通りです。)とき、複式電鍵を横に寝かせて、縦振りにして打ったこともありました。

また、リード線を使っていると非常に打ちにくいので、周りを見回すと洗濯ばさみがあったので、それにビニール被覆を剥いだ銅線を巻き付けて運用した覚えもあります。新品の洗濯ばさみは、バネが強くなかなか難しいのですが、古くて、バネがへたっているものなら、結構使えます。(金属製のものはダメです。プラスチック製のもの、木製のものなど趣があってよろしいかと)

CWは、電波が出るかでないかの区分だけで意志を伝えるわけですから、そういう意味では、非常に原始的であり、人間の根本に通じるところがあるのではないかと思っています。

今の時代に、なんとレトロなとも思いますが、すべてのデジタル信号のおおもとであると考えれば、そんなにレトロとも言えないのかなあとも思っております。

- . . . - . . . - . . . - . . . - . . . - . . . - . . . - . . . - . . . - . . . -

走りながら CW がしたい！

JF1RNR 今井栄

私のもう1つの趣味はサイクリングです。MTBでリバーサイドのサイクリングロードなどをよく走っております。

3年前に小さな自作のQRPLリグとキーなど1式をリュックにつめて、持ち運ぶようになりました。ロケーションのいいところを探しては移動運用しています。土手の上や広々とした河川敷での運用は固定では味わえない充実感があります。

特に、車に入れないところでは人もいませんので、思いっきり運用できます。

そうしているうちに、欲が出てきて走りながら運用できないだろうか？と考えるようになりました。

そして、2年前から少しずつ準備をはじめて今年のサイクリングのシーズンに間に合って、運用できるようになりました。出来あがったのが写真1です。



写真1：自転車モバイル

ハンドルにバッグをつけその中にリグを収めています。(写真2)



写真2: 自作QRPリグ

リグは7M/10Mの2バンド自作機です。走りながらせめてワッチだけでもしたいと消費電流の少なくなるように考えました。受信電流70mA送信電流300mA、出力1Wです。

受信は片耳式のヘッドホンです。走りながらでは周りの音も聞こえないと危険ですので、そうしています。

バッテリーは1.3Ahのパソコン用のニッカド電池です。ドリンクホルダーに入れていきます。

リグの消費電流が少ないので1日のサイクリングでは、電源の心配なく充分使えています。

キーはハンドルのバーエンドにクリップで止めた複式電鍵です。これは7L3TOF藤島OMが考案した接点1つの複式電鍵をクリップ固定式にしてあります。これだとクリップできる場所なら何処でもキーが打てます。(写真3)



写真3: 自作複式キー

ここまでは考えたとおりに出来ました。アンテナの取り付け、調整をどうしたらいいかしばらく考えていました。

無線専用の自転車なら、荷台を改造して、アンテナ基台を固定すればいいのですが、MTBで時には無線なしで林道とかオフロードを走りたいこともあります。そこで、サドルのポールに脱着できるリア キャリアを使うことにしました。リア キャリアの一番後ろに反射鏡が取り付けられるビス穴があいているので、そこに2mmのアルミ板をL字にまげてコネクタを取りつたアンテナ基台をつくりました。

最初モバイルアンテナをつけたのですが、ちょっと重すぎます。それとどうしてもマッチングが出ません。そこで、軽いアンテナを作ることにしました。(図1)

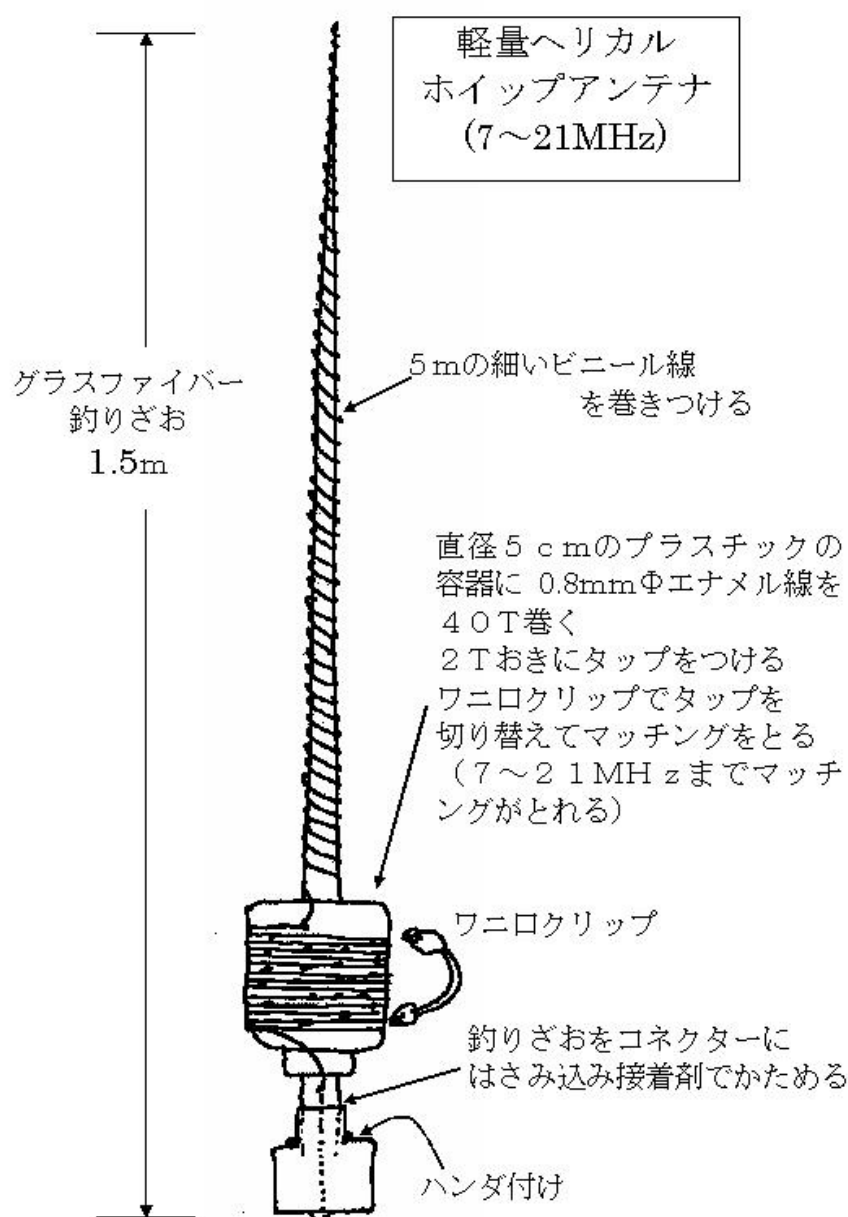


図1: 軽量アンテナ

ローディングコイルにタップをつけマルチバンドに出られるようにしました。最後の問題はマッチングです。自転車のフレームだけではどうしても7MでSWRが落ちません。ラジアル10mをつけると簡単に落ちるのですが、10mのラジアルを引かずって走るわけにはいきません。試しにプラスチックのケースをリアキャリアにのせて、その中に10mのラジアルを丸めて入れてみたら、1.7まで落ちました。いろいろやってみて、更に5mのラジアルを追加して2本にしたら、SWR1.1に落ち着きました。(写真4)



写真4: 黒いプラスチックケース内にラジアルを入れて走行

輻射効率を上げるためにはラジアルの本数を増やすとか、まだ検討の余地があります。

自転車移動の魅力は、どんな細い道でも入っていけますので、ロケーションのいいところで運用が可能となります。

河川の土手の上にあるサイクリングロードは絶好の運用場所です。2階建ての家を見下ろすところでは、低くともスカイラインです。FBなロケーションがQRP 1Wのパワーを増幅してくれます。

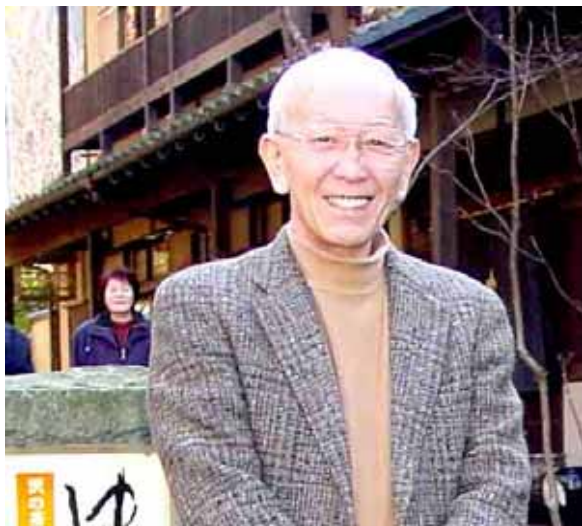
実際に走りながらワッチしていると、ゆっくりとしたQSBのように電波のいいところと悪いところが手に取るようにわかります。1WですのでCQを出してもほとんど応答はありませんが、信号の強い局を呼べばたいがい交信できます。自転車の速度は車と比較になりません。100Wの局と1Wも競争になりません。自転車と1Wはのんびりペダルをこぎながら、景色を楽しみ、じっくりワッチして交信できたとき、なんとも言えない充実感が味わえます。

どうしても交信したい時は、止まって自転車につり竿を固定してインバーテッドVアンテナをあげます。なれば5分もかかりません。フルサイズなら1Wでもたいがい交信できます。こんなちっぽけなパワーで実用になるのは電信だからこそです。

他のモードでは難しいと思います。

ミズホのピコ、FT - 817、SSTやK1は自転車移動にぴったりのリグです。
たまにはママチャリのかごにリグを入れて、自転車移動やってみませんか？
きっと、今までにない感動がありますよ。





とにかく電信を使用したのはライセンスを貰った最初の交信からだった。英語は下手だし内容は相手のコールサインと RST が分かるだけで名前さえ満足に受信出来ないままの QSO が続いたのだ。(1955 年だった!) 上手くなるために投資をしようと考えて月給の 2 倍近い Vibroplex の Deluxe というバグキィを買い込んだのだ。通勤の電車の中で左指の人差し指をパドルに見立てて右手の親指と人差し指に挟み込んで無意識にタッチの練習を繰り返した。このキィは今も大切に所持している。余談だが 1950 年版の ARRL の Radio Handbook は母にねだって当時 650 円で買ったものだが、この二つこそが私のアマチュア無線の原点になったものだ。今のように無線従事者になるのに電信符合(モールス符号)を知らなくてもなれる時代とは違ったのだ。モールス符号は無線局のシンボルでもあったのだ。

今日、私は電信を習得したお陰でアマチュア無線を継続出来たと思っている。70 歳を越えて声が出にくくなりお喋りが苦しくなるとコンテストはおろか通常の交信さえ面倒に感じるようになるが、モールス符号の場合はそれがない。そしてお相手はモールス符号を覚えようとする熱意のあるハムに限られる点で、相手局をある程度選別できるという利点も加わるのだ。この 45 年ハムをしてきて私の電信は確かに上手になった(最初の 15 年位はさぞかし相手局が理解に苦しむ符合を送ったのだろう Hi!), その上言語力もつき、会話に困らなくなったのも、偏にアマチュア無線のお陰であった。

キィの選択について---「弘法は筆を選ばず」というけれども、これは当たっていないと思う。練習するのだからどれでも最初は同じだ!とおっしゃる方がいらっしゃるけれども、これが正しいという符号を出すためには常識的にも良いキィを選ぶことだ。何も判らない貴方の独習の第一歩には、標準といわれるもので練習すること

が大切だと思う。お勧めはベンチャーのスクイーズ・パドルの Model BY-1 である。約 15000 円位で買えるはずである。安いストレートキーで覚えるとおっしやる方もあるが、安易にこれでモールス符号をたたき出すと、きっと後で後悔することになる。21 世紀に何故 19 世紀のキーを練習する必要があるだろう Hi! この 10 年来すべての HF の RIG には必ずスクイーズキーのためのキヤラーが内蔵されているから使用するのには困らないのだ。

電信モードを練習するのはまず受信能力をつけることが大切である。バンドを聞けば少ないとはいえ誰かが出ているが、7 メガは昼間は和文のモールスで初心者の練習にはならない。そこでお勧めは 21 と 14 メガの低い端の 000 から 040KHz までを探すと英語のモールス符号が聞こえる。兎に角、符号を送るということを他局はどのようにしているか？を知ることが出来る。しかし現代的にはやはり標準のテープで練習するのが一番よいのは確かだ。変な癖のついた符号を受けるのは最初の人のためにならない。実際の QSO を聞くことは、話の展開の仕方が学べる。英会話と同じで出会いの最初に何を言ったらよいかかわからないとか、あいつちの打ち方がとりわけ難しいのだ。

私はこの丸 7 年、毎週月水金の 21 時から 30 分間、ローカルのクラブ員とモールス符号の練習のためのプログラムを 145 メガの FM で F2 波で発信してきた。最初の 10 分はファーンズワース法のランダム符号を出し、次の 10 分は和文を、最後の 10 分は英文を 8-9 語/毎分で送り出している。送出には AEA の MM-3 キヤラーを使用している。(このキヤラーは、ASCII をモールス符号に変換するし、その逆も出来る上に、ファーンズワース方式の符号発生もできる機能を内蔵してしる、更に PARIS で校正された、送信符合を正しいクロック速度で送りだせる。メモリは増設可能で最大 36500 文字を記憶できる。自動スペース挿入もでき、ウェイトの微妙な調節まで出来る、という逸品である。) 段々と少なくなるモールス符号の信号を皆のお耳に触れてもらいたいと思って運用している。私が不在のときはクラブ員が交代で運用して下さるのだが、この 6 年間に 1 級局が 6 人、2 級局が 8 人も誕生したのに、少しはお役に立ったように思っている。VHF 帯で運用するのは、少しでも 4 級局の方々に聞いていただけるだろうという配慮ではある。アメリカの ARRL では中央局の W1AW がモールス符号による DX プレティンを毎日 HF 帯で送信をしているが、日本の JARL でもこうしたことにボランティア活動をして呉れたらと思うのだ。

40 年も昔のことだが、当時入力 50W にも満たない自作の送信機にいい加減なダイポールで、アメリカの軍用補助局の BC-610E の 250TH と張り合って DX を捕るのは電話では歯が立たなかった事を思い出す。仕方がなくて CW モードで、受信機に反共振フィルターを入れてダニの VP2 の太平洋ペデションを追い掛け回した。しかし最近の電信モードはハム人口の減少と、全ハムの 10% しかライセンスを持っていないことが幸いして、電信の応答率は非常に高い、その上ペデションに参加する局は必ず CW モードで運用してくれる。現在電信モードで運用することが出来る局は一種のステータス・ホルダーでもある。総じてアマチュア無線の先進国は必ず CW ができるが、後進国のハムほど電信が出来ないのは事実である。日本はアフリカ・東南アジア諸国について電信モードの少ないエンティティ(カントリー)である。

電信モードの上手な方はリズム感覚の優れた方に多いと思う。テンポとリズムを如何に捕らえるかが上達の秘訣である。もし貴方が楽器を演奏してられるなら間違いなく上手になることが出来る。これホント！

何事もそうだが、「今日は昨日よりも巧くなろう！」という考えで、いろいろと工夫をしたり勉強をするという積み上げ努力なしには進歩はない。モールス符号でも、自動車の運転でも、人が後ろから見て惚れ惚れとするような腕捌きがしてみたい！と永く思ってきた。人生も終焉に至ってやっと少しばかり美しい電信が送り出せるために、払った時間と、代価のなんと高価だったことか Hi！

- - - - - - - - -



どうにも、乙女チックな表題をつけて、自分で戸惑っている。この未だに魔可不思議な、無線に魅入られてから既に数十年の月日が流れた。最初は10石のトランジスタ短波受信機から、遠く国内外からの短波放送が聞こえるのに大変感激し、裏ブタを開けては基板上の部品を眺めた。今でもその色や、部品の匂いまで記憶に残っている。通信士のVJQとしては、今だに摩訶不思議の世界。

小学生から中学生にかかるところ、アメリカのTV番組が盛んだった。その中で『パパは何でも知っている Papa Knows Best』という番組の中で、息子が短波の無線機を作ってワッチをするというのがあった。飛びこんで来た信号が、船からの救難信号。息子が、何で沿岸警備隊は応答しないんだと訝ると、物知りパパが短波のスキップについてひとくさり。説明する前に早く911を呼べっていうの！ 遭難船からは、どなたか知りませんが有難うの送信があつてめでたしめでたし。日本の番組でも、高校生が電信を使って難破船を助けるドラマがあった。今思えば、稚拙なセットとストーリーだったが、その時は手に汗握っていたのを覚えている。こちら辺が、頭の片隅に電信がセットされた時期かもしれない。

そのうち、高校に上がる頃には少し古い50年代後半のCQ誌が、古雑誌として読めるようになった。都立深沢高校の先輩には、伊藤さんがいた。キンキン声の変調とパワーは当時から目立つ人でした。その頃入手出来た古いCQ誌で一番記憶に残る記事は、庄野さんのDX日記だった。なんだかとっても哀愁を帯びた、気負いの無い文章でDXをコツコツ稼ぐ様子は、こんなDXerになりたいと影響を受けた人も多いと思う。

自分にとって庄野 OT だけは特別で、今だに QRP で呼ばれた時は、背筋を伸ばしてきちんと応答しているのを、彼は気付いているだろうか。80m の QRP で AF が早く取れる事を祈ってます。

当時 88A と 9R59 で A3 の運用をしていたが、7メガの上の方でどうにも復調できない、モガモガした変調が聞こえ始めた。SSB? なんじゃそれは? BFO で聞こえるよ。でも安定度の悪い 9R59 では、一時もダイヤルから手が離せない。どうにも悔しくて、A3 で SSB のモガモガを真似しながら、ローカルと交信してしまう口 SSB という荒業を編み出した。相手は大笑いしてたけど。これが VJQ お得意の、口和文のルーツです。電話で感情を込めながら、口で和文信号を発声するという、なんとも下らない芸。HI

呼び倒しの(当時ですよ)海老さんが、自作の送受信機の前でデンと鎮座されている CQ 誌の表紙も、かっこいいなあ、何時かは俺も思っていた。60年代の CQ 誌の記事で一番面白かったのは、我が母校 MRC の OB である、鈴木氏の書いたマカオ運用記だ。

ピント博士や US から来た DXer との、丁丁発止の遣り合いをべらんめえ調で書いた記事は、非常に痛快だった。ああした快刀乱麻の記事は、その後 CQ 誌ではお目に掛かっていない。こうした人たちの、さらに1世代前の方々が、香取氏主催の東光クラブに在籍されている。ハムフェアの時、このクラブのブースで留守番していると、今をときめく大 DXer がきちんと挨拶をして記帳されていくので、その光輝く頭光クラブの御威光が良くわかった。まあ、OM たちがフルチンで江戸川で泳いでいた頃、既に大 OM として君臨していた方々ですから。クワッドがヘチマと理屈垂れても、所でおめえさん、昔江戸川で、、、なんて言われたら形無しでしょう。日本人ネットのキー局で有名な、サンノゼの山本さんを訪問した際、消息を聞いたきりですが、鈴木さんお元気だろうか?

さて、電信の話。最初に本格的な電信にお目に掛かったのは、大学のクラブ局での ALL JA コンテストだった。その時の先輩諸氏のエレキー、バグキーの捌きやコンテストの迫力を見て、こんな凄い世界があるのかと感激した。この感激は、今でも続いている。その時使われていた古びたバグは、流れ流れて自分のシャックにあり、銀ピカのプレゼンテーションより具合が良く、メインのバグになっている。当時の我が母校は、現在有名な大学各局など一蹴し、コンテストに強かった。電波の質は良くなく、CQ コンテストと怒鳴って応答が無いと、前後 10KHz がシーンとする。『やけに静かですね』『まーナニでしょう』なんて先輩と話し合っていたような、記憶があるような、ないような。今考えると冷や汗ものだが優勝した。コンテスト中、居眠りしながらヘッドホーンでワッチしていると、AF ポリューム最大の刑や、根性焼きの刑に処せられたのも懐かしい。オペが余っていたので、口を空け居眠りしながら麻雀をやっていると、牌を口に放り込まれた。

大学での DX コンテストをワッチしていて凄かったのは、KH6IJ の故・野瀬 OM のオペレーションだった。クラブの仲間が、『おい、短点しかないコールの局が、凄いパイルを捌いているぞ』。早速聞いてみると、確かに短点だけの局が、オンフレ怒パイルの山を、フルコール一発ゲットで、毎分 4 - 5局捌いている。それが野瀬 OM を聞いた最初

だった。未だにあれを超える CW オペレーションを聞いたことがない。今では、伝説のオペレータだ。

苔むした話しはさておいて、本文は、初級・中級向けにとの御下命なので、以下順を追って説明してみたい。

この文を読んでいる半数以上の人、実際に運用すると判るこの感激を知らずにサイレント・マイク(マイク?カッコ悪る)になるだろうが、『どんぞーい』ラジオしか知らないのはちょっと気の毒でざまー味噌。電信が全てで無いのを承知ではっきり言うが、電信を覚えてコンテストやDXをやり始めると、電話より無線が10倍面白くなり幅が広がる。そして、例え10-20年のQRTが在ろうとも、再び電信(無線)の世界に戻る事が可能。長く無線を楽しんでいる人が、電信をやっている割合はとても高い。電信の無い無線なんかとっくにおさらばだ。

何もない白紙の状態から、電信のモチベーションを受けるのは、電話が主流の今では難しい。『どんぞーい』ラジオや『お世話になります』『他一局待機』ラジオで、既に本人は十分無線を楽しんでいるつもりなんだから、こりゃやっかいだ。A1クラブのホームページに連載している千夜一夜物語から、抜粋するとこんな歌が、、、

=====

< 4アマの湖 >

ま、最初はここにプカプカ浮いているわけで電信の楽しみなど、なーんにも知らず、430や7036辺りで『お世話になります』なんて言って、十分無線を楽しんでいる。ドラエモンのメロディーで....

みっずに、ブック ブーク
みっずに、プッカ プーカ
そっれがどうした
ボク、ドーザエーモン

タケで突いちゃえ

こうした状態を『4アマ湖の土左衛門』という。

=====

土左衛門かよ！タケで突かれちゃかないません。50Wを得るが為に電信を習うという、不純な動機の輩は別として、一番良いのは、電信やっている人と知り合いになることだ。その人を指導者と奉り、その運用を自分の目で確かめてほしい。シャック訪問や移動運用やコンテストと一緒にやりその威力や迫力を目の当たりにする。たかだか5Wと2m長のベランダ・ホイップアンテナで、常時国内と開けるのはこのモードしかない。そして、色々質問してみる事。まってましたとばかり、熱く語り始めウルサイだろうが、とにかく聞いてみる事。

次に、お上のお墨付きを得るための試験が控えている。この試験で得たスキルは、実際の運用には御粗末すぎて、まず役に立たない。しかし、クリアしないことには電波は出せない。無線機を持っているなら、練習用のテープや CD よりも7メガのワッチを勧める。ここで数ヶ月、取れなくてもがまんしながらワッチを続ければ、昆虫程度の頭でも2アマのスピードは難なくクリアする。しかも、運用形態が頭に入っているので、免許証が来たその日から、オンエアするスキルが身に付いているだろう。その他の選択肢に、3アマへの移行コースがある。これが一番お手軽だが、肝心の運用スキルが身に付いていないので、実際の運用に入るまで時間がかかる。

電鍵の選択だが、出てくる符号が貴局のイメージを決めるから注意したい。符号が綺麗だと、例え鬼瓦のような顔や、東北の田んぼのスズメのような顔をしていても、隠し通せるメリットがある。誰にでもお勧め出来るのはエレキーしかない。今後貴局が大OM になってもエレキーはずっと使うので、短点長点のメモリー機能やアイアンビック操作に多少戸惑ったとしても、十分練習を積むこと。

縦ぶれキーは、ピアノと同じで押せば符号が出るので一見簡単だが、自己流でやると修復不能な癖が付く。難しいので、エレキーをクリアした後で、良い指導者の元で練習すること。良い指導者とは、綺麗な符号を3時間以上連続で打てる人。

バグは、最後のキーとなる。少なくとも縦ぶれをクリアした人が使うキーだ。バグキーでは、縦ぶれで長点を正確に打つのも同じスキルを要求されるので、エレキーからバグへの移行は大変難しいし、仲間でもせっかく高価なバグを買って、スタックしている人もいる。最近では、キーボードでの運用も多いが、せっかくブラインドで素早く叩ける腕があるなら、綺麗な符号が簡単にだせるのでお勧め。でも、電信臭さがないし、キーを磨たり、ウンチクを言い合ったりする楽しみもない。『このキーボードは、由緒正しきゲートウェイ純正であるぞよ』なんて言っても、誰も聞き耳を立てない。最後はサイレント・ボードだ。

リグの選択に関しては、出たいバンドで電信モードがありさえすれば、何でも良い。そのうち自分の目的に対して、何が重要か判断がつくようになってから、上位機種に移行すれば良い。しかしながら、スキルフルな電信マンを目指すなら、それを支えるリグとして以下が参考になると思う。

- 1) 機能とスイッチやつまみが、1対1で対応するようなりグ。同じスイッチを3秒間押すと違う機能などは使えないリグ。
- 2) フィルターは電信用に500Hz を入れる
- 3) サイドトーンを自由に変えられること
- 4) 派手なオプションより、基本性能で選ぶ
- 5) スプリット運用が楽なこと

さて、土佐衛門から、ドラえもんに昇格した貴方は、しかたなく交信を迫られる。CW 交信の実際は時間が解決するのだが、最初に電波を出すのは勇気がいる。中には、電波を出すまで1年掛かったなどという気の弱い人がいるが、一度電波を出しさえすれば

ば、あとは簡単。(2001年の12月号の電信特集を参照すること) 電信をベースに、自分の好きな分野を開拓すれば良い。QRP、DX、和文、コンテスト、移動運用等々いくらでもある。

何十年間、電信をしてきて気付いた運用に関しての最大の障害は英語。中級クラスでは、普通のスピードならどんな符号も打てるし、また取る事ができる。しかし、英語が出来ないために、相手が何言ってるか判らない。相手の言っていることに対して、言葉のやり取りが出来、意思の疎通を図るのが交信だから、英符号が取れるのと、英文が取れるのとは全く意味が異なる。(耳が痛いて? 私もです。) せっかく楽に世界に飛びたてる電信という武器を手に入れたのにもったいない。去年1年間英会話学校に通った。そこまでしなくても、無線機を皆が持っているから、それを使って外国局同士のCW交信を聞くこと。そして、英語の引き出しを少しずつ増やしておく。頭に関係ありません。外国では乞食でも英語を話しています。和文は良いモードだが、英文を怠ると和文の蝸壺から一生出てこれなくなる。和文蝸壺親父の一丁上がり。

交信時の書き取りはせず、暗記受信が上達の秘訣だ。書き取りはお受験だけで十分。何時までもやっていると、返って上達の妨げになる。頭の中に単語が浮かび、最後には文が浮かぶのが最終ゴールとなる。自分のシャックにあるのは、ポストイットだけで、要点だけをメモることがある。実際はログソフトにメモ機能があるので、それもいらな。筆記受信したがるのは、英文に自信がないから。和文では初心者でないかぎり、そんなことはしない。皆、日本語には自信があるからだ。

最近の無線の風潮で、おかしい運用形態が蔓延っているので注意を喚起したい。これは電信・電話に限らないが:

- 1) CQに应答する際は、ショートで1x1か1x2の应答ですぐスタンバイすること。最近 应答しながら、かっけてに交信に入ってくる大ばか者がいる。裏で CQ 局に対し珍局 が呼んでいたら、それを潰すことになるのに気付かない。ショートコールで一旦スタンバイは、どのような状況下でも鉄板、赤丸、ぐりぐりの掟。
- 2) 应答はフル・コールサインで应答する。そんなことは、中級以上の経験値を積んだ オペなら理由も含めて常識だが、必死にサフィックスだけを打ったり、怒鳴ったりして時間の無駄をしているオペが多い。

さらにスキルアップを狙い、PCを持っているなら、インターネットで電信に関する色々な情報を入手することができるので、活用しない手は無い。日本でも海外でも、各電信クラブや個人のホームページなどで電信に関する貴重な解説がのっている。是非参考にする事。

さて、それではドラえもんに変身した、貴局と会えるのを楽しみにしつつ、筆を置く。

- - - - - - - - -



JA2BCQ 鈴木さん
左手に持っているのは洗剤ケースに入ったQRプリゲ

・人はなぜ走るか。

技術革新の現代では、それこそ毎日のように新しい技術が開発され実用化されていきます。情報通信の分野でも、携帯電話会社は次世代方式の研究に力を注ぎ、BS衛星TVの電波はデジタル化が始まりました。

一方、CW、モールス通信は19世紀の半ばに考案された方式です。その後、細かな点では進化しましたが、点と線を組み合わせた符号に、文字としての意味を持たせて相手に伝える考え方は、今も変わっていません。いわば、情報通信方式の原始時代のものが生きているわけです。

能率や便利さを第一とする実用通信の場では、CWは過去の技術となって、今はもう使われなくなりました。それなのにまだそんなものを使っているCWファンというのは、何か古いものを集めて楽しむ骨とう品愛好家に似ているようですが、そうではありません。

今はどこへ行くにも鉄道や自動車を使います。海外へは快適なジェット旅客機があります。しかし一方、マラソン競技はますます盛んで、世界マラソンの選手から、毎朝

のジョギングの常連まで、いろいろな人が、自分の足で走ることを競ったり、楽しんだりしています。自動車や飛行機、鉄道は便利で能率がよく、現代の生活にはなくてはならないものになってはいますが、肌で風を感じながら、花の香りを味わいながら、大地を踏みしめて走る喜びは、それとは別のものだと思います。CWはこれに似ています。では、CWでしか味わえない喜びというのはどんなものでしょうか。

・手作りの喜び

私たちの身の回りには、工場で大量生産された色々なものがあり、私たちの生活を便利なものにしてはいます。しかし私たちは、ひとつひとつ職人さんの手から作り出される手作りの品々の魅力も理解できます。手編みのセーター、ハウスメードのクッキーなどが喜ばれるのは、それを作り上げた人の思いが伝わるからでしょう。

モールス通信の符号は、自分の手で点と線をひとつひとつ組み立てて送信するわけで、まさに手作りの通信といえます。そしてこれはひとつの技術ですから、練習することによってどんどん上達します。ここはスポーツなどと共通するところかもしれません。手作りなので、モールス符号は打つ人によって微妙な違いがあります。慣れてくると、コールサインを聞かなくても(ああ、これはあの局だな)と見当がつくほどに、人くさいところがあります。

・世界にひとつしかない喜び

いつの頃からか、アマチュア無線に使われる送信機や受信機は、回路も部品も複雑化・高機能化がどんどん進んでしまいました。今では、一般のアマチュア無線家にとって、トランシーバーなどはメーカー製のものを購入するしか方法がなく、アマチュア無線の魅力のひとつであった、自作機器で交信する喜びは無くなってしまいました。

しかし、モールス通信に使われる送受信機は、回路が簡単なので、まだ手作りできます。CWトランシーバーのキットも市販されていて、価格もそれほど高価ではありません。符号というソフトウェアだけでなくハードウェアも自分の手でつくり上げることができるのがCWの世界です。

世界をおおうコンピューターネットワークの先端技術と並行して、手作りのソフトとハードで交信を楽しむなんて、すてきなことではないでしょうか。

・世界に広がる喜び

モールス通信の特徴として、雑音や混信に強く小電力でも遠くとの交信ができるということがあります。自慢になりますが、私の小電力のレコードは、洗剤の空き箱に組み込んだ0.6Wのキットを使ったカリフォルニアの局との交信です。弱い信号をちゃんと拾ってくれた相手局の耳もよかったのですが、すこしは自慢したくなるではありませんか。もっとも最近ではPSK31のように、10Wや15Wで楽に海外との交信ができてしまう方式も出てきましたが、これはコンピューターがないとできないことから、ちょっと置いておきましょう。

各国のアマチュアと広く交信する時、自由に英語をあやつれる素晴らしい人もいますが、多くの日本人には言語の問題が立ちどころです。ところがモールス通信はSSBと違ってしゃべらなくてもいいのですから、われわれの苦手な発音などの問題は関係ありません。そして英文については、伝統的に省略して簡単にしたものが使われ

るので、これまた大変好都合です。もちろんきちんとした英文でやり取りするのがいいのですが、ただ単語を並べただけの文章でも、相手にちゃんと通じることは事実です。その単語も、もともと省略化されたものが多いので、綴りを間違えても、省略化したつもりでいればOKです。(HI)

・さぁあなたもどうぞ

残念なことに、アマチュア無線の人口は平成6年をピークに減り始めました。バンドによっては閑古鳥が鳴いているところもあるようです。しかしCWバンドをワッチしている限りでは、アマチュア無線の世界でのモールス通信の人気は衰えるどころか、ますます盛んになってくるような感じさえあります。CWの世界をまだ知らない方、CWのライセンスはあるが始めていない方、初めて自分のコールが呼ばれたときの開局当時の感動を、CWでもう一度味わってみてはいかがでしょうか。

・CWはどこに？

CW、モールス通信を楽しむには、どのバンドがいいでしょうか。そしてバンドの中では、どこにCWの局が出ているのでしょうか。今年、2002年の春から夏にかけてのコンディションの中でワッチしてみた印象をご紹介します。

と言っても、全バンドを取り上げることも難しく、ここではHF帯だけに限りました。個人的には10MHz帯が好きですが、WARCバンドは除きました。

ワッチするなら、本当はそれぞれのバンドの中で長くとどまり、注意深く待ち受けていなければならないのですが、すべてのバンドでそうするのは、事実上不可能なので、結果的にはいいかげんなことになりました。それぞれのバンドを、ダイヤルの端から端までゆっくりと2,3度往復する、という形です。いわばその時点での瞬間値とでもいうことでしょうか。1局が交信中なら相手局もあるわけだし、パイルを受けている局があれば、それこそ何局も折り重なって呼んでいるわけですが、固いことを言わず1局としました。以上、言い訳いろいろです。

・7MHz帯がにぎやか。

図1をごらんください。5月から6月にかけての間で延べ30日ほど各HF帯のCWバンド(注)をワッチした状況です。(コンテストがあった場合は除いてあります)これでお分かりのように、CW局が多いのは、なんといっても7MHz帯で、昼夜を問わずCW局が出ています。ついで21MHz、14MHzの順です。1.9MHzや3.5MHzはほとんど夜間しか聞こえません。逆に28MHz帯は昼間のバンドと言えるでしょう。

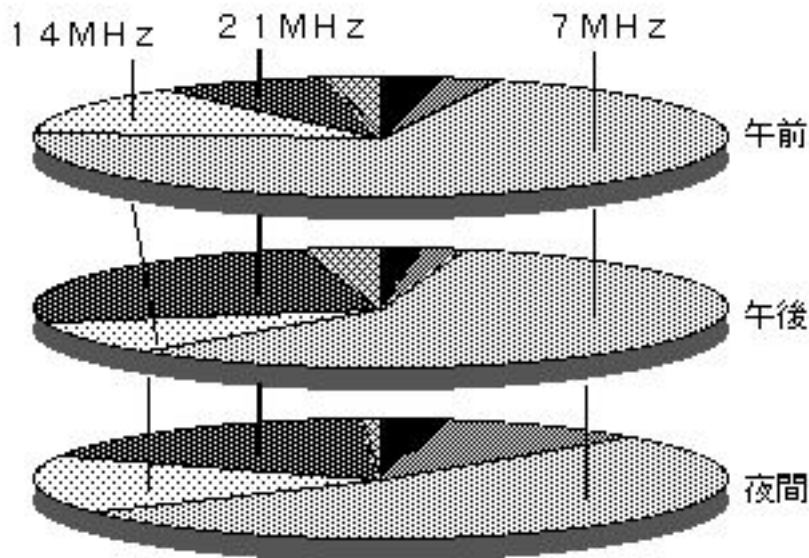


図1

・7MHzがおすすめバンド。

いくらやる気十分でも、相手がいないことには話になりません。空いているからといって静かなバンドへ出てみても、空振りCQばかりではがっかりです。7MHzなら、呼ぶにしても呼ばれるにしても、必ず手ごたえがありますから、CWの手始めにはここがおすすめです。ただし、CWでは、初めはフィルターが入っていないとつらいと思います。リグによってはCWフィルターが入っていない場合があります、これを知らずにいて、CWというのはやたら混信ばかりで面白くない、と興味を失う方がいますので、念のため。

・どこに誰がいる？

図2は、その7MHzのCWバンドの中を表したものです。図1と同じように、約30日間の累積で、特定の1日の状況ではありません。ご覧のように国内では和文の局が圧倒的です。欧文局は7025KHzから上と7010KHzから下ですが、下の方は海外局のシグナルがほとんどです。上の方では欧文でゆっくりした速度で交信している国内局もあり、CW初交信の場所にはふさわしいと思います。

実は、7MHz帯は海外局も入感するDXバンドでもあるのですが、国内の和文局の陰になってしまっていることがあります。長い間ここでCQを出している海外局を、だれも呼ばないことがあります。前半に書いたように、単語を並べた英文でもできるのがCWの良さです。ぜひチャレンジなさってください。

なお、1998年にCQ出版社から発行された「モールス通信」(定価 1,900円 税別)は、CWに関する参考書としてこれ以上のものはないほどに、優れた内容のもので、もし入手できるならぜひ一冊をシャックに置かれると良いと思います。

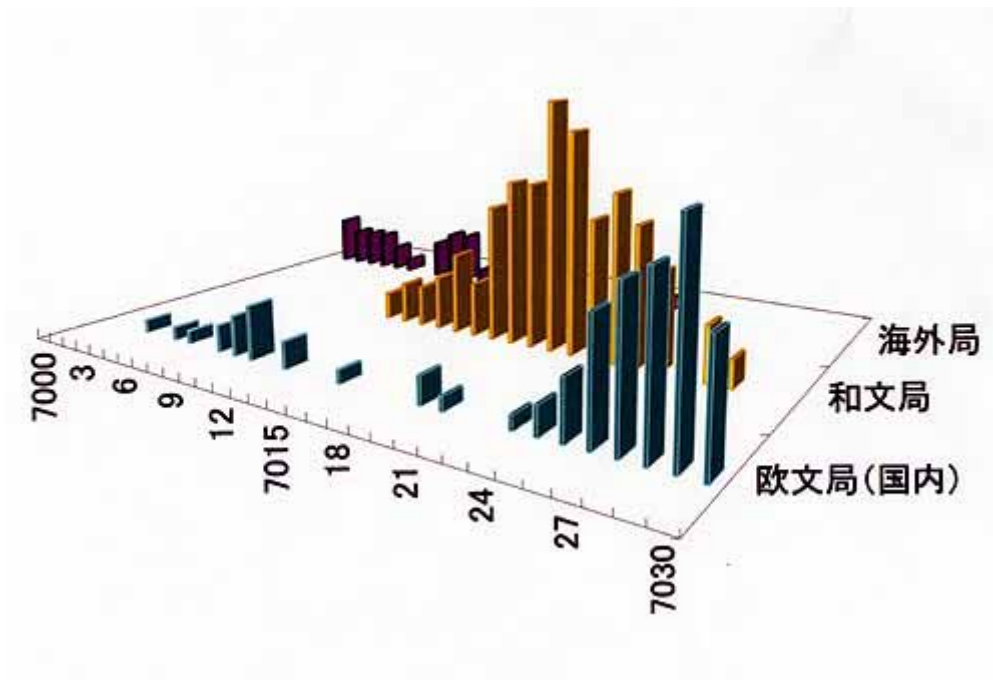


図2

(注) JARL バンドプランでは、1810-1825; 1907.5-1912.5; 3500-3525; 7000-7030; 14000-14100; 21000-21150; 28000-28200 (KHz)。ただし、CWは本来バンドのどこに出てもいいことになっているが、バンドの慣行もある。